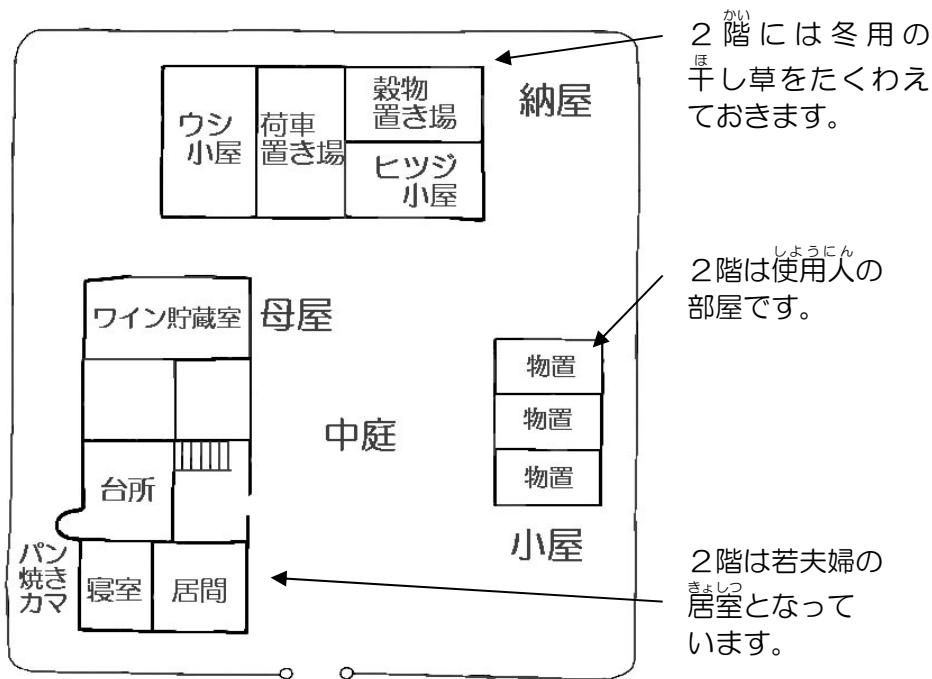


# フランス アルザス地方の家 ちほう

フランス<sup>とうほくぶ</sup>東北部、ドイツと<sup>こっきょう</sup>国境<sup>せつ</sup>を接するアルザス地方で、ウシやヒツジを<sup>か</sup>飼うとともに、ムギ、ジャガイモ、トウモロコシ、ブドウなどを栽培している農家<sup>さいばい</sup>を復元<sup>ふくげん</sup>しています。

庭<sup>かこ</sup>を囲むように<sup>おもや</sup>母屋<sup>なや</sup>、<sup>こや</sup>納屋<sup>はいち</sup>、<sup>さいげん</sup>小屋を配置し、1850年代、アルザスの農村に伝統的な暮らし<sup>のうそん</sup>が残り<sup>でんとうてき</sup>がっていた時代の様子<sup>く</sup>を再現<sup>さいげん</sup>しています。



## 【内陸性の気候】 ないりくせい きこう

パリから東へ500kmにあるアルザス地方は、西にヴォージュ<sup>さんみやく</sup>山脈があるため、大西洋の影響<sup>たいせいよう えいぎょう</sup>をあまり受けず、やや内陸性の気候となっているため、雨は年間1,000mmほどと<sup>ひかくてき</sup>比較的少なく（リトルワールドのおよそ3分の2）、夏暑く、冬寒い土地柄<sup>から</sup>です。

## アルザスの伝統衣装

アルザス地方の女性の伝統衣装は、ギャザースカート、黒い胸飾りがついたブラウス、頭には蝶結びのリボンをつけたものが一般的です。リボンをつける習慣は、19世紀初めから広まったとされています。男性は、黒いズボンと上着、赤いベストを着て、帽子をかぶります。女性のリボンは信仰する宗教によって大きさが異なっており、大きいものはプロテスタント、小さいものはカトリック教徒であることを表しています。



出典：「Mon Village」, Hansi 作

## ロンバージュ（木骨構造）の家

母屋は、1582年に建てられたものです。リトルワールドへ持ってくるために解体した1985年まで、9代にわたって住まわれていました。3階建て、白いしっくい壁に柱や筋かいなどが突き出ている点が特徴です。このような建築様式は、中部ヨーロッパ独特のもので、ロンバージュ（木骨構造）と呼ばれています。筋かいには、「ムギの穂」や「アンドレの十字架」のデザインが見られます。



### さがしてみましょ

雨戸にあいたハート型の穴は、明かりとり。  
また、邪視をふせぐ魔よけの意味ももっています。

